

【第3回】 将来のまちのあり方について考えていきます これからのまちのあり方

問 政策企画課企画調整係 (☎ 286-3121)



府中町では、持続的なまちの発展や活性化につなげるために、市になること（市制施行）を含めた単独自治のあり方について今年度中をめぐりに検討を行っています。

今回は、人口が5万人を超える自治体として、府中町のこれからのあり方について考えていきます。

5万人を超える自治体のあり方

府中町は現在、全国の町村の中で唯一、人口が5万人を超えており、かつ、最も人口が多い自治体です。また、府中町は人口が県内23市町のうち8番目に多く、県内で比較しても他の市と遜色がない状態にあります。

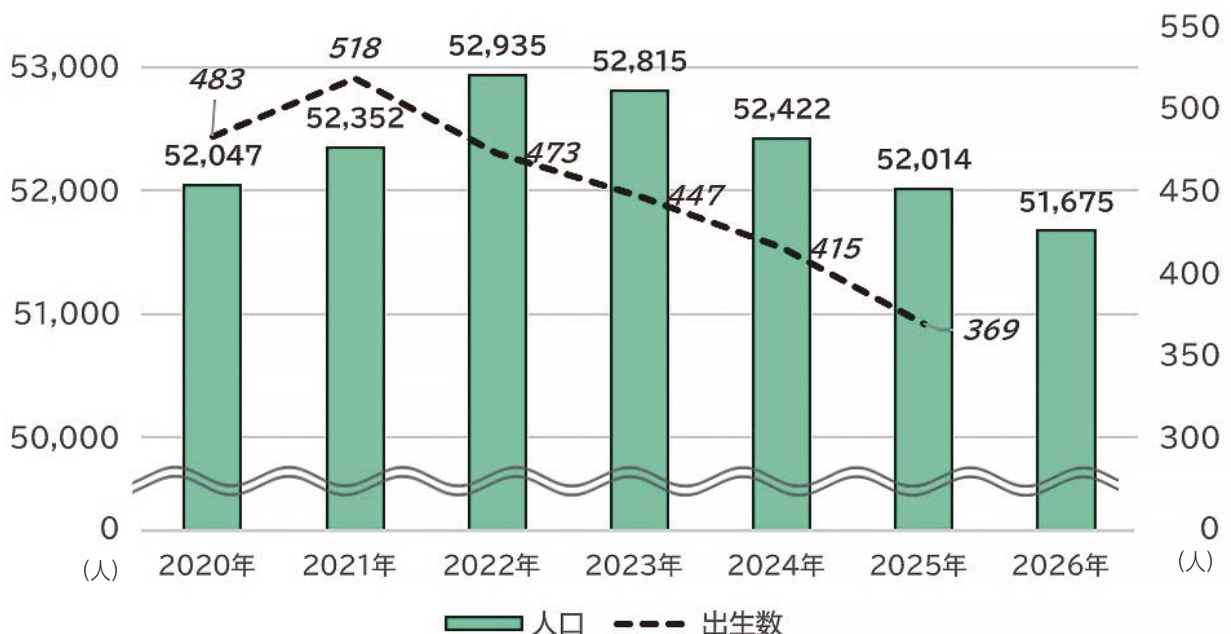
過去には、他にも人口が5万人を超える町村がありましたが、それらの自治体は行政サービスの充実や都市的イメージの獲得、地域の活性化と発展を目指し、いずれも単独で市制を施行しています。このように、人口5万人を超えた自治体が市制を施行することは、行政として地域の発展を目指す基本的な姿勢となっています。

今後のまちの課題

少子高齢化の進行により、日本の総人口は減少局面に入っています。府中町の人口も2022年をピークに減少傾向にあり、減少が続く見通しです。こうした局面において、このまま何も手を打たない場合、まち自体が衰退し、地域の存続にも関わる大きな課題にもなりかねません。

この状況をふまえて、町では、「第5次総合計画」を策定し、地域の活性化や人口の維持を図ることとしています。地域の持続的な成長へつなげていくためには、現状に甘んじることなく新たな視点で取り組む姿勢や、短期的なメリット・デメリットでなく長期的な視点で地域の発展を考える姿勢が必要と考えています。

府中町の人口・年間出生数推移



※いずれも住民基本台帳を参照。人口は毎年4月時点の数値を、年間出生数は毎年度の数値を示しています。

町HPは
こちら▶

課題解決に向けたまちのあり方

町村が市になるためには、人口が5万人以上などの要件があります（詳しくは広報ふちゅう5月号をご覧ください）。ただし、要件を満たせば自動的に市になるわけではなく、要件を満たした自治体が判断したうえ、手続きを行うことになります。

町では、将来のまちのあり方を検討するにあたり、過去に単独で市制を施行した自治体を調査してきました。その結果、市制を施行することで次の効果があると考えています。

- まちのイメージや魅力を高めて発信することで人や企業を呼び込み、将来的なにぎわいにつながります。
- 市制施行の人口要件を満たす町は全国で府中町だけです。注目度も高く、大きなアピールとなります。
- 町から市になることで他都市との連携が強化できるなど、自治体運営の力が高まります。

一方で、次の負担が考えられますが、他の自治体の事例を参考に、経費の削減や情報提供による住民の負担軽減を検討していきます。

- 公共施設の看板表記などを修正するための経費が発生します。
- 保険やクレジットカードなど一部のサービスで住所変更手続きを要する場合があります。

（サービス提供先や状況によります。福岡県那珂川市の事例では、サービスなど115件のうち、手続きや確認が必要なものは10件でした。）

市制施行は、短期的には住所表記以外に住民生活に大きな変化はないように感じられるかもしれませんが、視点を変えて長期的に考えると、市になることで人やモノ、情報を集めることで、人口減少をはじめとする町が今後直面する課題を克服し、地域の発展・成長につなげるという大きな効果が期待できます。そのため、これからの将来世代も見据えた手段として、市制施行は有力な選択肢であると考えられます。

みんなで考えましょう!

住民の皆様への説明会 を開催します

市制施行の検討について、今後、住民の皆様へのアンケートなどを行う予定です。つきましては住民の皆様に向けた説明会を開催します。

- 7月25日(土) くすのきプラザ
- 8月8日(土) 南公民館

（時間など詳しくは広報ふちゅう7月号や町HPなどでお知らせします。）

町内会などの地域団体向けには6～7月に順次開催します。また、団体からのご希望に応じて町の職員がお伺いして説明会を行うことも可能です。政策企画課企画調整係にお問い合わせください。

